



◎本ニュースレターは、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信するものです◎

コロナ禍が一時的に収まっていた時期に行われた、小学生から高校生のみなさんを中心とした活動報告が集まりましたのでお届けします。また、エコネット応援団の Facebook ページ（裏面参照）でも、みなさんから寄せられた情報や楽しんでもらえるイベントなどを発信していますので、ぜひご覧くださいね。

■2021年11月5日（金）〔愛知県一宮市（起地区ワンド周辺）〕

一宮市立起小学校4年生のみなさんが「ワンド環境学習会」を行いました

イタセンバラの飼育に取り組んでいる一宮市立起小学校の4年生のみなさんが、ワンド環境学習会を行いました。当日は好天に恵まれ、子どもたちは、木曽川の歴史と人との関わりを学んだ後、川のきれいさを調べる水質調査の体験や、木曽川のワンドに生息する生きものを調べる魚類調査の体験、そして川の生きものにとって、すみやすい環境を守る工事や働く機械の紹介なども行いました。

水質調査では、きれいな木曽川の水が、たったスプーン1杯分のジュースで一気に水質が悪くなってしまう様子を目の前で体験し、みんなびっくりしたのと同時に、いろいろな生き物がすんでいる川を汚さないように、自分たちでできることは何だろう？ と考えるきっかけになりました。

子どもたちからは「魚たちがすみにくならないように川を守っていきたい」「ワンドにいる魚の観察ができて楽しかった」「人々の知恵やがんばりで木曽川の水がきれいになっていることがわかった」などの感想もあり、楽しく川と触れ合いながら、環境について学ぶ貴重な体験となりました。魚たちが住みやすい川は、みんなが笑顔になりますね。



▲木曽川のワンドやイタセンバラのことを教してもらいました。みなさん真剣に聞いています。



▲働く機械
バックホウ



▲魚の名前は何だろう？



▲水質調査の体験をしました。おいしいジュースを川に流すと水を汚す原因になるんだね。



▲木曽川の水質を調べてみたら、とってもきれいな水でした。

■2021年11月25日（木）〔岐阜県羽島市（中島小学校、羽島地区ワンド周辺）〕

地域の宝ものを守ろう！ 羽島市立中島小学校にて「第8回 羽島市イタセンバラ塾」が開催されました

平成26年より羽島市教育委員会主催で市民を対象に開催しているイタセンバラ塾ですが、新型コロナウイルス感染症予防に配慮して、今年度は羽島市立中島小学校4年生のみなさんを対象に行われました。

当日は、体育館にて木曽川の自然や生きもの、みなさんの暮らしと環境の変化について、クイズを交えながら学んだ後、いろいろな生物がすむ木曽川のワンドへ移動し、水質調査や魚類調査の体験学習を行いました。子どもたちは普段の学校生活ではできない体験に目を輝かせていました。



▲木曽川のクイズでは、たくさんの手があがっていました。みんな木曽川の自然や生きものに詳しくなれたかな？



▲ワンドに見立てたプールで魚類調査。どんな魚がいるのかな？



▲上：ワンドの説明を真剣に聞く子どもたち。
下：魚の名前を真剣に調べています。

羽島市では、岐阜県水産研究所の指導のもと、環境省中部地方環境事務所からイタセンバラを貸与していただき、羽島市立図書館と木曽川流域周辺の市立学校にて展示飼育を行っています。中島小学校では、令和2年10月より飼育展示が始まり、イタセンバラサポーターに任命された4年生が大切に育てています。

イタセンバラは一年しか生きられない魚のため、一生懸命お世話をしても数が減ってしまい、寂しい思いをしていましたが、今年度9月に新しいイタセンバラが仲間入りし、水槽の中がにぎやかになったそうです！これからも「地域の宝ものイタセンバラ」の飼育をがんばってくださいね。

■2021年11月3日(水)【みかげの森プラザしもたど】

ハリヨシンポジウムが開催されました

岐阜県海津市教育委員会主催の「ハリヨシンポジウム」が開催されました。

シンポジウムでは、岐阜協立大学の森先生監修の映画「はりんに愛あるゆえに」短縮版を鑑賞し、森先生よりハリヨの保全と治水の両立および地域住民の参画の重要性などについて講演が行われました。

また、大垣東高等学校理数科ハリヨ班のみなさんからは、清水池のハリヨに関する最新の調査結果の報告がなされ、ハリヨは近年減少傾向にあり、水温もやや上昇傾向にあるとのことでした。森先生も「水温の経年調査は重要」とコメントされ、高校生の今後の活動に期待していました。



◀左：岐阜協立大学 森 誠一教授
右：大垣東高等学校理数科ハリヨ班のみなさん

羽島市内の中学校で初の飼育展示！

羽島市立羽島中学校で「イタセンパラ受け入れ式」が行われました

イタセンパラの受け入れ式が令和3年9月16日に羽島中学校で行われました。羽島市内の中学校では“初”の飼育展示となります。

10匹のイタセンパラが貸与され、水槽に移されると生徒たちは泳ぐイタセンパラの可愛い姿に見入っていました。毎日餌をあげたり水槽の清掃などのお世話を行いながら、地域の生態系や自然保護を学んでいます。



アクア・トトぎふの池谷館長とイタセンパラサポーターの生徒たち

木曽三川流域おさかなコラム vol.2

（じゃない）

雀のお宿の 大きなお客様 (コハクチョウ)



一宮市木曽川町の木曽川の堤防沿いにある緑地「雀のお宿」には、毎年冬になるとシベリアから大きなお客様がいらっしゃいます。そのお客様の名前は「コハクチョウ」。名前からわかるように白鳥の仲間の小さめの鳥なのですが、それでも羽を広げると190cmほどになる大きさで、お宿の雀はさぞや毎年びっくりしていることでしょう。毎年、年末年始頃を目処に飛んでくるようで、1年で1番寒い時期をやり過ごすために、日本や中国、韓国へやってくるとのこと。

飛来 of the period becomes, swan's inn or its nearby water side from, can see that we can see the Kohakuchou. Kohakuchou is a good parent-child relationship, and if you look closely, 2 swans of white and grey color hatched young birds (children born in that year) are standing and swimming in a posture that can be seen. It is not impossible.

福祉教育の先駆けとして野田素峰（のだそほう）が設立し、北原白秋（きたはらはくしゅう）が名付けた「雀のお宿」で、かつては子供たちが、そして今はコハクチョウたちが育っている。こんな奇縁な感じがしてちょっと面白い、趣深い越冬地は日本を見回しても珍しいのではないかと思います。

足取り重たい寒い時期ではありますが、なんといっても間近ではなかなかお目にかかれない白鳥の仲間、近づきすぎには気を付けつつ、大きなコハクチョウをお出迎えに行ってみるのはいかがでしょう。



facebookページはこちらからアクセス！

<https://www.facebook.com/kisosanseneconet/>



掲載用情報を募集しています！

事務局では、このニュースレターや facebook ページで、木曽三川流域におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関連する地域の取り組み情報を発信しています。生物多様性の保全や生きものを活用した地域づくりなど、応援団の皆さんからの投稿・情報提供を随時募集中です。下記お問い合わせ先まで、お気軽に情報をお寄せください。（なお、紙面の都合等で取材・掲載できない場合もありますこと、予めご了承ください。）



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会（事務局：国土交通省木曽川上流河川事務所）は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の市民団体・自治体・有識者・河川管理者等によって、平成26年度に設立されました。

本協議会では、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関連する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指していきます。

「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/econet/index.html>>

木曽三川流域エコネット応援団 事務局：国土交通省 木曽川上流河川事務所 調査課（岐阜県岐阜市忠節町5-1）

【問い合わせ先(R3事務局窓口)】 cbr-kisojyo-chosa@mlit.go.jp / tel 058-251-1125 / fax 058-251-1150

